

令和元年度 第5回鹿屋市子ども・子育て会議 会議録（要点筆記）

開催日時	令和2年1月29日（水）13:15~14:50	
開催場所	鹿屋市役所 3階議会棟 全員協議会室	
委員出欠	出席委員 21名	森委員、朝野委員、エルメス委員、鮫島委員、西之原委員 山口（な）委員、柳元委員、吉崎委員、岡留委員、福元委員 軀川委員、宮下委員、濱上委員、新川委員、有川委員、清水委員 田木委員、渡邊委員、末吉委員、吉永委員、立切委員
	欠席委員 4名	山口（か）委員、馬場委員、内野委員、寶満委員
事務局及び関係部課出席者	中津川保健福祉部長、柗木子育て支援課長、井料課長補佐 堀田係長、下假屋係長、堂地係長、下小野田主査 吉永主任主事、繁昌主任主事 （福祉政策課）藤田係長 （健康増進課）加世田係長 （教育総務課）柿内課長補佐 （学校教育課）畑添係長 （生涯学習課）平山係長	
傍聴者	なし	

【1 開会】

【2 報告】

（1）令和元年度第4回子ども・子育て会議 会議録の報告

（委員）

前回の会で、保育施設の定員変更について、ペナルティを科すルールを撤廃をお願いしたいと申し上げたが、議事録から漏れているようである。掲載について検討いただきたい。

〔掲載する〕

【3 議事】

（1）第2期鹿屋市子ども・子育て支援事業計画の素案パブリックコメントの実施結果及び事業計画（修正案）について

（委員）

パブリックコメントの実施について、広く公表し、34日間募集していたとされているが、自分は知らなかった。意見を出している4名のうち3名が医療的ケア児の保護者であるようだが、珍しい比率なのではないか。そのような方は知っていて、特に問題を抱えていない子どもたちを育てている自分たちが全然知らないという状態であるが、募集方法が適切であったと言えるのか。医療的ケア児の保護者は情報収集をしっかりとされており、たまたま募集を目にされたのかもしれないが、全く違う方向の問題を抱えている方が他にいると思う。医療的ケア児の件については貴重なご意見だとは思いますが、それだけを見て計画を追加するということが適切なのか疑問に感じる。

〔パブリックコメントについては、ホームページと広報かのやにて周知を行った。以前の意見募集では1件だったところが、今回4件に増えているため、そういった意味では広く見ていただけたものとも考えられるが、意見募集の手法については工

夫を加えていきたい。]

(委員)

同様の意見が保育会からも出た。パブリックコメントについてポスター等あれば保護者等にも周知しやすいため、次回はずいぶんそのようにしていただきたい。

医療的ケア児については、議会でも3名の議員から答弁があったため、そこの兼ね合いもあるのではないかと思う。反映されたことは良いことであると思うが、周知についてはもう少し工夫していただきたい。

(委員)

自分は幼稚園児童・小学生・中学生の保護者であるが、周りの保護者からはもっとたくさんの意見を聞いている。もし幼稚園・小学校・中学校からプリントなど配布されれば保護者は必ず目を通すはずなので、アンケートなどにし、回収するほうが意見を集められるのではと思う。

[アンケートについては施設等を通じて行った。反省すべき点と考える。今後検討していきたい。]

【4 その他】

(1) 鹿屋市子ども・子育て会議の委員公募について

(2) 令和2年度鹿屋市子ども・子育て会議のスケジュール(案)について

(委員)

応募が8名に達しなかった場合はどうするのか

[「8名程度」とされているため、8名に達しなくても委員の選考を行う予定である。]

(委員)

応募資格は「小学校就学前までの乳幼児を子育て中の保護者」とされている。小・中・高等学校を卒業するまで子育ては続くものと思うが、この応募資格は適切なのか。

[まずは計画を作ることが目的であり、この計画が未就学児を基本としているものであるため、未就学児を子どもに持つ方を中心に選定しているところである。ただ、応募人数が8名に達しない場合は、いろいろな意見もいただきたいため、それ以外の方にも委員になっていただければと思う。]

(委員)

計画自体は未就学児を基本としたものであると思うが、実際未就学児を育てている間は目の前のことに精一杯で、子育てを終えて初めてわかることもある。あまり子育てから期間が離れても忘れてしまうかもしれないが、子育てを経てこそ「こういうものがあれば便利だったのに」と気づくこともあり、意見を出すことなく終わってしまうことも多いので、応募資格については幅広く考えるべきであると思う。

[応募資格については「“おもに” 小学校就学前までの乳幼児を子育て中の保護者」とされていることから、応募者の家族構成等も勘案しながら検討したい。]

(委員)

この会議の条例には「子どもの保護者」とあるにも関わらず、今回の募集要件は小学校就学前までに絞られている。問題ないのか。

(委員)

私は学童クラブで小学1～6年生を預かっており、やはりその保護者の意見も反映されるべきだと思っているが、その保護者は“おもに”の中に含まれているものと考えている。そのような拡大解釈でよいのではないか。幅広く意見をきけるような募集の内容を今後検討していただきたい。

(3) 子育て広場の進捗状況について

(委員)

施設内での飲食について、県との協議はどのようになっているか。

[県からは施設内の飲食店を活用してほしいという希望もあって継続協議中であり、「軽食程度」というレベルの結論にしか至っていない。継続協議していく。]

(委員)

絵本は何冊程度、どのような内容の本を置く予定か。

[専門的な分野になるため、現在市立図書館に選書を依頼している。予算の上限もあるため、冊数はまだ決まっていない。]

(委員)

何名まで対応できるのか。また、せっかく良い施設ができるため、広報には力を入れていただきたい。

[施設の面積が450平米程であり、都城市の“ぶれびか”や鹿児島市の“りぼんかん”が3.3平米に1人を基準としていることから、面積だけで考えれば、保護者まで含めて一度に100名程は入るのではないかと思う。ただ、さまざまな年齢層が来るため、エリアごとに使用できる人数を設定し、人数を超過するようであれば1時間毎の交替制にするなどの安全策をとりたいと考えている。

また、施設利用の前に事前登録や利用証の発行をする予定であり、開所と同時にスムーズな施設利用ができるよう、施設ができる前に利用登録を開始したいと考えている。その際に大々的にPRする予定である。]

(委員)

りぼんかんは、小学生が幼い子どもとぶつかるなどのトラブルを避けるため、職員が監視するなど安全面に力を入れているが、同じような対策はとられるのか。

[安全対策についてはハードとソフトの両面で考えている。ハード面として、各エリアをベンチクッションで仕切ることを予定しており、小さな子どもがいるエリアに小学生等が突然走り込んで来るなどのトラブルを回避し、併せて、高い壁ではなく低いベンチクッションにすることで監視の目を妨げないようにしたいと考えている。また、ソフト面については人の配置であるが、平日4名、休日5名の人員体制をとりたいと考えている。]

(委員)

保育園や幼稚園等の団体利用についてはどう考えているか。

[他の類似施設の運営状況等みながら検討しているところである。りぼんかんは、子ども3人につき大人1人を随伴することとしており、遊具があるエリアについては少人数のみ受け入れている。雨の日等に遠足で利用したいなどの相談があった場合は他の貸し部屋を案内しており、一般の利用者を優先しているとのことであった。

今後、どのような規程を設けるかは検討中であるが、条例の中に盛り込むのでは

なく、運営規程の中で細かく定めていきたいと考えている。

ふれびかも、開所当初は団体の受け入れは行っておらず、状況を見て半年後から徐々に受け入れていったとのことであった。一定期間利用状況を見た上でまたこのような場でご説明させていただき、どのように受け入れていくか検討していきたい。]

【その他】

（委員）

保育会の園長会の中で、今後の運営について検討しているところであるが、保育士の減による定員減をしたいという、これまで想定していなかった意見が会員の中から上がっている。これまでの定員減は、子どもの数が少なく、定員に満たないために定員を減らしたいというものであったため、想定していない初めてのケースであった。しかし、これは氷山の一角であり、他の会員からも同じような悩みが報告された。令和3年頃からは、保育士の不足によって子どもの受け皿が減るという事態が大いに予想される。市としても対応策を検討していただき、何ができるか一緒に議論していただければと思う。

[保育士の確保については、施設の方々が苦慮していることを私たちも承知している。潜在的保育士はいるようであり、市でも人材確保事業としてホームページへの掲載等行っているが、常勤雇用を希望する施設と、短時間勤務を希望する保育士とでミスマッチがおきている。そこをどうにか調整するというのが一つ。もう一つは、都会に出た若者に帰って来てもらうというのである。人材の不足により子どもの受けられができないという意見については、また、新たな問題として協議していかなければならないと考えている。]

（委員）

昨年この時期に、成人式の日程を早めたらどうかという意見を出させていただいた。今年の成人式は1月4日だったが、実際、周囲からの話を聞く限りでは、正月の里帰りの際に成人式に参加することができてよかったという良い意見が多かった。日程を変更したことにより参加者の増減はどうなったのか、また来年以降の日程についてはどのように考えているのか。

[成人式については、今あったように、参加人数を増やしたいという思いから日程を早めたが、結果として参加者数は昨年と変わらなかった。しかし、来年度以降も1月4日に固定でいきたいと考えている。]

（委員）

来賓として成人式に参加したが、天気も良く、会場内はもちろん、外にも多くの保護者が待機していた。純情な若者たちの様子が見られた素晴らしい式で、自分たちもがんばらなければという気持ちになった。

[保護者としての個人的な意見であるが、私の子どもも新成人として成人式に参加した。県外在住のため、正月の帰省時に成人式をすませることができ、また、そこで同窓会まで開催することができて子どもたちも喜んでいるようであった。]

（委員）

今年の4月から、成人が18歳以上とされることになるが、成人式は今後どのようになっていくのか。

[令和4年以降の成人式についてはまだ検討中である。アンケート等でさまざまな

意見を伺いながら決めたいと考えている。]

(委員)

今回の資料で医療的ケア児の支援について見て、これまでの話し合いは健常児のためのものばかりだったような気がして、限定的な意見ではあると思うが、こういう意見が聞けてよかったと思った。自分自身も訪問看護の仕事で医療的ケアを必要とする子どもと関わっているが、養護学校のことなどはわからないことが多い。少数派の話なのであまり知らずに過ごしているが、何人くらいの子どもの通っていて、年齢層がどれくらいなのか等、同じ鹿屋に住んでいながら何も知らずに生活しているのだなと思った。新しい子育て支援施設ができ、喜んでいる人たちがいる一方で、なかなか便利にならないという思いを持ち、ただ子どもを学校に通わせたい、卒業させたいというだけでも困っている保護者がいるのかと思うと、もっと協力できることはないのだろうかと思う。

[医療的ケア児については、私たちもわからなかった部分があり、今回このような意見をいただいて気づくこともあり、当然計画の中にも盛り込んでいくべきであろうと考えたところである。医療的ケアが必要なところを除けば普通に生活できるという子どもたちを受け入れるために、施設側の受け入れ方がどうあるべきか等、情報共有しながら態勢を整えていけたらと考えている。

養護学校についてであるが、最初の子ども・子育て会議の委員には、養護学校のPTAの方は委員に入っていなかった。その場でいろいろと話し合いながら、委員の方から意見を伺い、現在は養護学校に子どもを通わせる保護者の方にも委員を引き受けていただいているところである。その中でいろいろとまた意見を伺えばまた計画の中にも盛り込んでいけるのではないかと考えている。]

[障がい者手帳の取得など、公的な認証を受けている方であれば障がい者福祉サービス等の支援を受けられるが、今、顕在化しつつあるのが、公的認証がなく医療的ケアを必要としている方がいるということである。そのような方々が障がい児向けのサービスを受けられず、就学・就園上の課題があるところのご意見をいただいているところであり、現在、福祉政策課で協議を重ね、令和2年度は、障害児福祉計画第2期の策定作業を行うところである。おそらく医療的ケア児に関する取り組みが焦点になると思うので、情報発信しながら市民の皆様からご意見をいただき、計画を策定していきたいと考えている。]

(委員)

二年間、いろんなご意見を伺い、勉強させていただけたことについてまずはお礼申し上げます。また、自分は子育て世代の親たちの意見を聞く機会が多くあるため、転勤等で鹿屋市に移住してこられた方からの意見を申し上げておきたい。

まずは鹿児島市から大隅半島へ橋を架けていただきたいという件である。さまざまな理由で凍結されてしまった話であることは承知しているが、気軽に鹿児島に帰ることができずに辛い思いをしているお母さんたちが多く聞かれます。

次に、中学生を子に持つ親御さんからの要望として、映画館一つでいいのでどこか遊べる場所を作ってほしいということである。

他にも、子どもを産む場所がないという意見も伺っている。子どもを安心して産める環境の整備をお願いしたい。

以上三点はお伝えしておきたい。

また、昨年11月、県の子育て支援の会議に初めて参加させていただいたが、大隅からは自分一人で、市民委員2人、他はPTA会長や大学教授、小児科医等で構成されていた。話として報告だが、現在、かごしま子ども未来プラン2020について話し合っ

ている最中であり、知事からも、どうやって鹿児島らしさを汲んでどう教育していくかということで、こども食堂の支援や、公民館の活用についてのお話があった。他に、小・中・高校の繋がりが薄いことや、中学1年生の不登校が多いことが県で大きく問題として取り上げられていた。大隅半島のことで言うと、地域医療・医師の確保についても言われていたが、主に鹿児島市内の話が中心であったため、大隅の方にも目を向けていただきたいということは重々申し上げてきた。

その他、大隅半島に遊園地を誘致したいという話をされた県議がいた。自分も、何か観光業で盛り上がるものを作ってもらえればありがたいなと思った。

良いやり方だと思ったのが一つ、先に出欠表をいただき、年間のスケジュールを出すことになっている。これなら自分たちもスケジュールを組みやすいので良いと感じた。また、冊子の中で、「〇〇さんの意見はここに反映されています。」「△△さんの意見はここに記入してあります。」と驚くほど意見が反映されていた。県だからできることなのかもしれないが、素晴らしいと思った。この会議でも、個人の意見がどこまで反映されるかわからないが、市民の意見を求める会を、ボランティアでも募って年に何回かしてもらえれば、もっといろいろな意見が出るのではないかと個人的には考えている。

〔 橋を架ける件については関係部署にも話を伝える。〕

(委員)

27日、会に出席するため鹿児島市内に行ったのだが、垂水フェリーも桜島フェリーも運行見合わせになっており、陸廻りで行くか悩んだ。結局その後運行を開始したため会には間に合ったが、同じようなことを考えた。

日程表の件についてだが、県が主催する会は同じような手法で委員のスケジュールを合わせているものが多い。

【5 閉会】

※〔 〕は事務局及び関係部課の回答。